

MazROC

マツロクプラス
2024. August

マツ六株式会社

Topics

- ✓ 漆 LOHATES 和藝 (わげい) 発売中!
- ✓ たよレールUPDATE 特設ARページ
- ✓ H.C.R.2024 出展します!
- ✓ 理学療法士からみた手すりハ
- ✓ ちょっと気になるサステナビリティ etc...

漆 LOHATES

和
藝

NEW

黒 LH-04JBK
朱 LH-04JYR

発売中



茶の間に、客室に、寝室に、仏間に。
今日たずねてくる、大切なあの人のために。

漆LOHATES和藝で、
和の空間にバリアフリーの「しつらえ」を。

伝統工芸である漆塗りの美しさが
上品に引き立てます。



椅子からの
立ち上がり



床からの
立ち上がり

たよレール シリーズ NEW

UPDATE

たよレール アップデート

2024.10月発売予定

発売に先駆け、マツ六WebAR「スマホでデモ機」に
たよレールUPDATEの特設ページを開設しました!
まずはARで新しいたよレールを是非お試しください!

アプリも登録も不要!

MazROC WebAR

スマホ
デモ機

たよレールUPDATE
特設ページはコチラから



ひと足お先に
ARでどうぞ!



国際福祉機器展 H.C.R.2024

出展します!

10月2日(水)~4日(金)まで

10:00~17:00 東京ビッグサイト
(最終日は16:00まで) 東展示ホール

福祉住環境
コーディネーター

道

Q

地域生活への移行をめざしている障害者や、一人で暮らしたいというニーズをもつ障害者もいることから、「障害者総合支援法」では2014(平成26)年、一人暮らしに近い形態の【A】を創設した。本体住居との密接な連携を条件として、一定の設備基準を緩和しており、民間賃貸集合住宅の一室なども利用することができる。定員は1人で、居室面積は7.43㎡以上とする。

A

- ①サテライト型住居
- ②外部サービス利用型ホーム
- ③介護サービス包括型ホーム
- ④日中サービス支援型住宅

答えは
裏面へ

Sport (エスポート)
CBRディレクター
理学療法士

和田 圭市

コラムに関する
ご意見・ご感想を
お寄せください！ご協力いただいた方の中から
毎月抽選でプレゼントも！
詳細は下記をご覧ください。https://event.mazroc.com/
column-goiken

縦手すりにぶら下がるのは危険

屋外で歩行練習をするために玄関で靴を履く利用者の手すりの使い方に違和感を感じました。習慣として、突っ張り式の縦手すり“たよれールhigh”を引っ張りながら靴を履いています。縦手すりを引っ張って使うことは正しい使い方なのでしょうか。

その場で片足立ちをして靴の脱ぎ履きをしてみてください。このとき、足底部のつま先側か踵側のどちらに体重がかかっていますか？本来、片足立ちでバランスを保つには、つま先側で体重を支えることが重要です。つま先側で体重を支えることで膝関節の前を重心線が通るようになり、それが膝関節を伸ばす力に変わるため安定した片足立ちにつながります。もし、踵側で体重を支えてしまうと膝関節の後ろを重心線が通るため膝関節には曲がる力加わり、支えるよりも膝折れする力となり尻もちをつく原因になります。実は、みなさんが玄関で靴の脱ぎ履きをするときに壁に手をつきバランスを保つのは、つま先側で体重を支えることで膝関節を伸ばす力を得るためには効率の良い方法なのです。

人間の正しい動作は、日々の生活場面に自然と現れます。理学療法士は目に見えない重心や関節に加わる力の関係から動作を分析するのが役割ですが、それだけでは信憑性がなく説得力に欠けるため、研究として数値データを取り解析することも重要な役割の一つです。今回、経済産業省の事業のもとマツ六株式会社として、立って靴を脱ぐときの縦手すりに加わる力の方向と足底で支える重心動揺について測定する機会をいただきました。結果は、手すりや壁など何も持たずに靴を脱ぐと足底部のつま先側で体重を支えているのに対して、手すりを持って靴を脱ぐときには手すりを引っ張り足底部の踵側に体重をかけて、縦手すりにぶら下がっていることがわかりました。インタビューでは、「手すりですべて支えているだけで押し引きしている感覚はない」、「手すりを押ししている感じ」などの声が聞かれていることから、実際の手すりに加わる力の向きと自身の動作には差異があり、この差異が高齢者の

転倒の原因である可能性が高いと考えました。そこで、縦手すりにパットを装着し肩でもたれかかるようにして靴を脱いでもらったところ、本来の手すりを押す方向と同じ力が加わり足底部のつま先側で体重を支える結果になりました。しかし、動作として重心のコントロールを考えると安全ではありませんが、普段の動作とは違うことから「もたれかかるのは不安」という声が聞かれました。手すりに正しい力を加えて利用する方法を広めることがこれからの大きな課題です。

手すりを使うとどんな場面でも安全性が確保できるわけではありません。人は手すりに頼ることで知らず知らずのうちに間違えた動作を選択することもあります。福祉用具を扱うものとして手すりの選定や設置だけではなく、正しい使い方を指導できてこそ高齢者の生活機能変化に配慮した安全に関するユニバーサルデザインの実現を可能にしましょう。

令和5年度産業保安等技術基準策定調査研究等事業
(高齢者向け製品の安全性規格等検討事業) 調査報告書
手すりにおける実証実験(運携企業:マツ六株式会社) P.35 ~ 46

ちょっと気になる

サステナビリティ 3

皆さんはMDGs(ミレニアム開発目標)をご存じでしょうか。SDGs(持続可能な開発目標)は、胸にバッジを付ける方も増えていますのでご存じの方も多いかもしれません。しかし、その前身がMDGsと言われる目標であり、なぜSDGsに更新されたのかという背景までご存じの方は少ないと感じています。

MDGsは2000年に国連が採択した8つの目標で、2015年までに貧困削減や教育普及、病気の撲滅などを目指していました。主に途上国の課題解決に焦点を当て、貧困削減や教育機会の拡大に一定の成果を上げています。ただし、MDGsには一時的な援助が多く、持続可能な支援が少なかったという失敗もありました。例えば、食料支援は実施しても、貧困国自らが食料を作る方法を学ぶことが出来るような長期的な目線の支援は少なかったという点です。

この反省を踏まえて、2015年に採択されたSDGsでは、「持続可能」というキーワードが入るようになりました。

This month's theme

失敗から学んだSDGs

貧困の削減やグローバルなパートナーシップの構築といった項目がSDGsに含まれるのは、MDGsで達成しきれなかった内容を引き継いだという背景もあるんですね。

MDGsが2015年に終わったように、SDGsには2030年までの期限があります。私たちも持続可能な開発を心掛けて行動していきたいですね。

